

わが国の中学校段階における オリンピック・パラリンピック教育の分析

—「オリンピック・パラリンピック学習読本」を事例にして—

An Analysis of Olympic and Paralympic Education at the Junior High School Level in Japan:
Taking the “Olympic and Paralympic Learning Handbook” as a Case Study

佐藤 克士¹、大矢 幸久²

Katsushi Sato, Yukihisa Oya

キーワード：オリンピック・パラリンピック教育、中学校、教材（学習読本）分析

I. はじめに

2020年に開催が予定されていた東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（以下、東京2020大会）は、新型コロナウイルス感染症の世界的流行を受けて、2020年夏の開催日程から1年延期することとなった。オリンピック・パラリンピック教育（以下、オリパラ教育）は、東京2020大会の成功に向けて、国や自治体が一丸となって推進しているものであり、それらの理念や方針を受け、学校教育では様々な取組みが展開された。その中でも特に、開催都市である東京都では特別な予算措置がされており、その取組みは他の自治体と比べ、非常に充実した内容となっている。例えば、東京都教育委員会（以下、都教委）では、東京2020大会の開催に向け、オリパラ教育専用のホームページを開設し、実際の授業での使用を想定した教材（「オリンピック・パラリンピック学習読本」（以下、「オリパラ学習読本」））等を公開している。また専用ホームページでは、都内全ての公立学校2,300校の幼児・児童・生徒100万人を対象とし、年間35時間のオリパラ教育に関わる授業を2016年～2020年までの5年間実施するという数値目標を掲げて取り組んでいる（東京都教育委員会）。このような、いわゆる“〇〇教育”が社会的・政策的に要請されると、急速にそこに研究・実践の焦点があたる。藤原（2013）は、近年、学校に要請され、あふれる“〇〇教育”について「いまでも、一人の教員が教科を上手に教え、生徒指導とすべての児童生徒に関わる事務手続きをし、防犯や防災に気をつけながら、一人一人のアレルギーをチェックし、AED（心肺蘇生用の医療機器）を使えるようにし、環境教育や情報教育に慣れ、福祉ボランティア教育と国際理解教育を教え、さらに食育にも消費者教育にも気を配り、尖閣諸島や北方領土への意識を盛りたてて日本人としての誇りを持たせ、おまけにスポーツ指導や部活動を担当しながら、要望が強くなりがちな保護者の声に応える……なんて、一人の人間のやることとして明らかに無理があります」と指摘している。このように“〇〇教育”の要請が、教育課程上、僅か数時間である授業に莫大なエネルギーが投下されている現実がある。もちろん新しいテーマを重点的に追求することには意義があるかもしれない。しかし、その結果、教員の業務量は増大し、圧倒的多数を占める日常の授業が改善されないという危険性を孕んでいる。今日の学校教育には、“オリパラ教育”らしさを追求し、“オリパラ教育”がめざす特設単元的な授業を構想する一方で、普段の教科指導を充実させながら、結果的に“オリパラ教育”の目標（目的）にも応えていくもう一つの戦略を検討していくことも重要ではないだろうか。

¹ 玉川大学 教育学部／武蔵野大学 教育学部

² 学習院初等科

このような問題意識のもと、本研究では、都教委が作成・監修している「オリパラ学習読本」を事例にその特質を明らかにするとともに、普段の教科指導における教材としての活用可能性について検討していくことを目的とする。研究目的に関わり、「オリパラ学習読本」に着目する理由は二つある。

第一に、「オリパラ学習読本」が、他に都教委が提供している資料と比べて、都教委が掲げるオリパラ教育の目標（目的）及び意図を強く反映して作成されていると考えられるからである。具体的に、都教委が公開している専用ホームページには、「オリパラ学習読本」の他にも「オリンピック・パラリンピック教育実践事例集」や「教育研究員研究報告書」等、オリパラ教育を授業レベルで推進していくための具体的な実践記録や実践事例が年度ごとに整理され、公開されている。これらの「教育実践事例集」や「教育研究員研究報告書」は、都教委が掲げるオリパラ教育の理念や方針を実施主体である学校や教師が解釈し、実践した記録であるのに対して、「オリパラ学習読本」は、作成（監修を含む）の主体が都教委であり、その理念や方針を忠実に反映させて（意図的・計画的に）作成された教材である。このような特質を踏まえるならば、「オリパラ学習読本」を分析対象とし、その中身を検討していけば、教材としての特質を明らかにすることができる。具体的には、どのような学習テーマで構成されているのか、またどのような資料（文章・図表等）が掲載されているのか、さらにどのように課題や問いが設定されているのか等を視点に分析することで、その特質を明らかにすることができる。

第二に、上記のような特質を踏まえ、教材としての系統性を検討することができるからである。「オリパラ学習読本」は、『オリンピック・パラリンピック学習読本 小学校編』（東京都教育委員会、2019a）・『オリンピック・パラリンピック学習読本 中学校編』（東京都教育委員会、2019b）・『オリンピック・パラリンピック学習読本 高等学校編』（東京都教育委員会、2019c）（以下、『小学校編』・『中学校編』・『高等学校編』と示す）の校種ごとに計三冊で構成されている。これらの教材は、校種が進むにつれ、内容の充実とともに頁数も増加している。これら各校種の教材の構成及び内容を比較・検討することを通して、内容の異同や校種間の系統性を明らかにすることができる。先行研究では、オリパラ教育と学校体育の関連について論じたもの（原、2020）や、オリパラ教育に基づく教育実践を分析したもの（佐々木、2018・2020）はあるが、オリパラ教育に関わる教材（「オリパラ学習読本」）としての内容的妥当性について論究したものは、既に筆者らが発表したもの（佐藤・大矢、2021）以外は確認することができない。

以上の理由を踏まえ、本研究では本稿に先立ち、解明した『小学校編』に続き『中学校編』を分析対象として、その特質を明らかにしていくとともに、主として中学校社会科地理的分野を想定し、普段の教科指導における教材としての活用可能性について検討していく。その際、比較対象として社会認識形成に有効性が高いカリキュラムとして定評があるイングランド地理教育（KS3）におけるテキストブック、具体的にはイングランド中等地理教育の中でも最も広く使用されている『NEW Key Geography』シリーズ（KS3）を取り上げ、わが国のそれと比較・検討する。イングランドのそれを比較対象として取り上げる理由は、2006年に発刊されたテキストにおいて、2012年のロンドンオリンピック大会を見据えてオリンピックに関する学習が単元レベルで位置づけられており、わが国のそれと比較・検討することを通して、学習内容の異同はもちろん、普段の教科指導（中学校社会科地理的分野）における教材としての活用可能性について検討することができると考えたからである。

II. 都教委が掲げるオリパラ教育の目標（目的）・内容・方法

オリパラ教育の意義について吉武（2020）は、オリンピック及びパラリンピックが掲げる価値（卓越・友情・敬意／尊重、勇気・強い意志・インスピレーション・公平）を享受するためであると指摘する。東京2020大会の開催都市である東京都では、どのような目標（目的）を掲げ、オリパラ教育を推進しようとしているのだろうか。ここでは、都教委が掲げるオリパラ教育の目標（目的）と、それを達成するための基本

的方針を確認していく。

都教委（2016）によれば、「オリンピック・パラリンピック教育は、スポーツを通して、知・徳・体の調和の取れた人間を育成することを目指し、オリンピック・パラリンピック競技大会の開催地において、子供たちが、スポーツにより心身の調和的発達を遂げ、進んで平和な社会の実現に貢献できるよう計画・実施するものを指します」と述べた上で、下記の4つの育成すべき人間像を示している。

- ① 自己を肯定し、自らの目標をもって、自らの自己ベストを目指す意欲と態度を備えた人間
- ② スポーツを親しみ、知・徳・体の調和のとれた人間
- ③ 日本人としての自覚と誇りを持ち、自ら学び行動できる国際感覚を備えた人間
- ④ 多様性を尊重し、共生社会の実現や国際社会の平和と発展に貢献できる人間

また、上記の育成すべき人間像に迫るための基本的枠組みとして「4つのテーマ」と「4つのアクション」を示しており、これら4つを組み合わせて（「4×4の取組」）多様な教育活動を展開することが方針として示されている。ここでいう「4つのテーマ」とは、「オリンピック・パラリンピックの精神」・「スポーツ（オリンピック競技、パラリンピック競技、障害者スポーツ）」・「文化（日本文化、国際理解・交流）」・「環境（持続可能な開発のための教育 ESD：Education for Sustainable Development）」であり、「4つのアクション」とは、「学ぶ（知る）」・「観る」・「する（体験・交流）」・「支える」である。さらに、上述した「4×4の取組」を通して、子供たちに「ボランティアマインド」・「障害者理解」・「スポーツ志向」・「日本人としての自覚と誇り」・「豊かな国際感覚」の5つの資質を育成していくことが目標として掲げられている。

Ⅲ. 『中学校編』の分析方法と分析結果

1. 『中学校編』の分析方法

上述した都教委が掲げるオリパラ教育の目標（目的）・内容・方法は、児童・生徒を対象とした教材にどのように反映されているのだろうか。ここでは、『中学校編』をもとに、上記の論理がどのように反映されているか、その特質を明らかにしていく。

『中学校編』は全5章で構成されている。具体的に、第Ⅰ章は「第32回オリンピック競技大会・東京2020パラリンピック競技大会が東京へ」、第Ⅱ章は「オリンピック・パラリンピックの精神」、第Ⅲ章は「オリンピック・パラリンピックと日本」、第Ⅳ章は「世界に発信する日本の良さ」、第Ⅴ章は「東京オリンピック・パラリンピックが目指すもの」である。また、1テーマ（内容項目）あたりの紙面構成に関して、原則見開き二頁であり、主に「テーマ〈内容項目〉」、「本文」、「図表（写真を含む）」、「豆知識」、「学習の扉」等のパーツが組み合わされて構成されている。

本教材を分析するにあたり、下記のような視点を設定し、検討していく。

視点1は、各テーマ〈内容項目〉において、どのような内容を学習させるために、どのような資料が掲載されているのか、というものである。ここでは、主な学習内容として要約された見出しと掲載されている資料（図・表など）のタイトルを抽出・整理していく。

視点2は、各テーマ〈内容項目〉の学習は、「4つのテーマ」のうち、どのテーマに該当するのか、またそれは「4×4の取組」を通して育成したい資質のどれに対応しているのか、というものである。ここでいう「4つのテーマ」とは、「オリンピック・パラリンピックの精神」・「スポーツ（オリンピック競技、パラリンピック競技、障害者スポーツ）」・「文化（日本文化、国際理解・交流）」・「環境（持続可能な開発のための教育 ESD：Education for Sustainable Development）」であり、育成したい資質とは、「ボランティアマインド」・「障害者理解」・「スポーツ志向」・「日本人としての自覚と誇り」・「豊かな国際感覚」の5つを指している。この視点で分析することを通して、中学校段階において計画されているテーマと目標（育成したい資質）の関係

及び傾向を明らかにすることができる。分析にあたり、『オリンピック・パラリンピック教育実践事例集』に示された「1 オリンピック・パラリンピック教育の基本的な考え方・進め方」及び「2 全体計画例（中学校）（第1表）」を参考に、該当するテーマ・育成したい資質を判断していく（東京都教育委員会、2016）。

第1表 オリンピック・パラリンピック教育の全体計画例（中学校）「4×4の取組」の指導の重点

		学ぶ（知る）	観る	する（体験・交流）	支える
オリンピック・パラリンピックの精神		学習読本を活用し、歴史・意義、価値、役割等について学ぶ。	映像教材や、1964年東京大会等過去の大会の映像や写真を観る。	オリンピック・パラリンピックに関わる様々な行事やイベントに参加する。	地域行事等の運営にボランティアとして参加する。
スポーツ	オリンピック競技	競技種目の特徴やルール、歴史等について学ぶ。	実業団や大学生などのアスリートの実演を観る。	オリンピック・パラリンピックの要素を取り入れた体育授業や運動会等を行う。	小学生の部活動体験やスポーツ指導等を通して、社会貢献の良さを味わう。
	パラリンピック競技・障害者スポーツ	競技の歴史や概要について調べる。	ライブサイト等で、リオ2016大会、平昌2018大会を観戦する。	特別支援学校の生徒と共に、障害者スポーツを体験する。	障害者スポーツ大会等の運営等にボランティアとして参加する。
文化	日本文化	東京や郷土、日本の伝統・文化について学ぶ。	東京や郷土、日本の伝統・文化芸術を見学する。	伝統・文化である武道に取り組む。	郷土の伝統・文化を伝承するために、発信する。
	交際理解・交流	大使館職員の講話を通して、対象国に対する理解を深める。	地域の外国人、留学生等が紹介する伝統・文化芸術を観る。	地域の外国人や留学生等との交流を通して、国際理解を深める。	「おもてなし親善大使」育成塾に参加する。
環境		過去の大会や東京2020大会における環境への配慮を学ぶ。	東京2020大会会場予定地等の環境への配慮を観る。	CO ₂ 削減等、自分のできることを見付けて実践する。	地域の清掃活動等に積極的に参加する。

（東京都教育委員会、2016、p.11より）

視点3は、どのような問い・課題を通して、どのような思考を促し、どのような知識の獲得をめざしているか、というものである。ここでは、主に「学習の扉」に示されている問いや課題を対象に、上記のそれを分析していく。分析にあたり、岩田（2001）の知識論を参考に思考の働きと獲得される知識の質を分類していく。具体的に思考の働きに関しては、事実判断、推理、価値判断の3つに、獲得される知識の質に関しては、記述的知識、分析的知識、説明的知識（概念的知識）、規範的知識の4つに分類・整理していく（第2表）。この視点で分析することを通して、学習の結果として獲得される知識及び知識を獲得するための思考との関係を明らかにすることができる。

第2表 問いの種類と思考及び獲得される知識の質

問いの種類	問いの性格	思考の働き	獲得される知識の質	
When, Where, Who, What	・情報を求める問い ・時、場所、人、個別事象を求める問い	事実判断（知る）	事実関係的知識	記述的知識
How	・情報を求める問いと情報間の関係を求める問いの中間 ・目的、手段・方法、構造、過程、相互関係を求める問い			分析的知識
Why	・情報間の関係を求める問い ・結果を示して原因を求める問い（因果関係）			推理（わかる）
Which	・価値判断を求める問い ・意志決定を迫る問い	価値判断（考える）	価値関係的知識	規範的知識

（岩田（2001）をもとに筆者作成）

2. 『中学校編』の分析結果

『中学校編』の指導展開をまとめたのが第3表である。第3表は左から、章、テーマ〈内容項目〉(頁)、主な学習内容と主な資料(【視点1】)、該当する「4つのテーマ」と育成したい資質(【視点2】)、設定されている問い・課題と期待される知識・思考(【視点3】)について整理している。期待される知識・思考に関しては、岩田(2001)の知識論を参考に、「記述・分析的知識【事実判断】(○)」、「説明・概念的知識【推理】(●)」、「規範的知識【価値判断】(△)」の3つに分類した。

第3表 『オリンピック・パラリンピック学習読本 中学校編』の内容構成と分析

章	テーマ〈内容項目〉 (頁)	【視点1】 〈 〉主な学習内容 □ 主な資料	【視点2】 ※ 該当するテーマ ◆ 育成したい資質	【視点3】 設定されている問い・課題と 期待される知識・思考
第I章 第32回オリンピック競技大会・東京2020パラリンピック競技大会が東京へ	1. 大会の基本コンセプト (pp.10-11)	〈東京2020大会の基本コンセプト〉・〈東京2020大会の持続可能性コンセプト〉・〈東京2020大会から広がる未来の「5本の柱」〉 □第32回オリンピック競技大会・東京2020パラリンピック競技大会の開催期間 (図) □東京2020大会の基本コンセプト (図) □東京2020大会の持続可能性コンセプト (図)	/	○大会の基本コンセプトを踏まえ、東京2020はどのような大会になるのか、イメージしてみよう。
	2. 熱戦がくり広げられる競技会場 (pp.12-13)	□オリンピック会場 (図表・写真) □パラリンピック会場(図表・写真)		○観戦したい競技を選んで、競技会場までの行き方を調べてみよう。
	3. オリンピック実施競技(夏季大会) (pp.14-15)	□東京2020オリンピック競技大会実施予定競技 (写真)	※スポーツ ◆スポーツ志向	○興味をもったオリンピック夏季大会の競技内容や種目、そのルール等について調べてみよう。
	4. オリンピック実施競技(冬季大会) (pp.16-17)	□冬季大会の実施競技 (写真)	※スポーツ ◆スポーツ志向	○雪と氷の上で実施される冬季大会のそれぞれの競技にはどのような種目があるのか調べてみよう。
	5. パラリンピック実施競技(夏季大会) (p.18)	□東京2020パラリンピック競技大会実施予定競技 (写真)	※スポーツ ◆スポーツ志向	/
	6. パラリンピック実施競技(冬季大会) (p.19)	□2018(平成30)年第12回平昌大会の例 (写真) □公平に競う合うための工夫の例 (豆知識)	※スポーツ ◆スポーツ志向	○パラスポーツには、どのような種目があるのか調べてみよう。また、競技を安全に行うための工夫やルールについて調べ、実際に競技の様子を見てみよう。
第II章 オリンピックの精神・パラリンピックの精神	1. オリンピックが目指すもの (pp.22-23)	〈オリンピズムとは何か〉・〈オリンピック憲章とは何か〉・〈オリンピック・ムーブメント〉・〈オリンピック・シンボル〉 □1988(昭和63)年第24回ソウル大会の開会式 (写真) □オリンピック・シンボル (写真) □「より速く、より高く、より強く」 (豆知識) □オリンピックの三つの価値 (図)	※オリンピック・パラリンピックの精神 ◆豊かな国際感覚	○オリンピックで「卓越」「友情」「敬愛／尊重」の三つの価値が表れる場面はどんな時か考えてみよう。

<p>2. 古代オリンピック (pp.24-25)</p>	<p>〈神に捧げる祭典、オリンピック〉・〈優勝者に与えられたもの〉・〈古代オリンピックで行われていた競技〉 <input type="checkbox"/>古代オリンピックが開催されたオリンピア遺跡 (写真) <input type="checkbox"/>オリンピア (ギリシャ) の位置 (地図) <input type="checkbox"/>葉冠を被った室伏広治選手 (写真) <input type="checkbox"/>古代オリンピックで行われていた競技 (写真)</p>	<p>※オリンピック・パラリンピックの精神 ◆豊かな国際感覚</p>	<p>○古代オリンピックは、紀元前776年から約1200年にわたり、ギリシャのオリンピアという都市で行われていました。クーベルタンが近代オリンピックを始めるに当たり、模範とした古代オリンピックとは、どのようなものだったのでしょうか。 ○古代オリンピックで行われていた競技と現在行われている競技の共通点と相違点について考えてみよう。</p>
<p>3. 近代オリンピックとクーベルタン (pp.26-27)</p>	<p>〈クーベルタンの考え〉・〈クーベルタンが残したもの〉・〈世界に広がるオリンピック〉 <input type="checkbox"/>クーベルタン (写真) <input type="checkbox"/>1896年に開かれた第2回IOC委員会 (写真) <input type="checkbox"/>オリンピック復活に尽力したクーベルタンへの感謝の意を表す記念碑 (写真) <input type="checkbox"/>芸術競技 (豆知識)</p>	<p>※オリンピック・パラリンピックの精神 ◆豊かな国際感覚</p>	<p>○クーベルタンがオリンピックで目指したものは、現代社会にどのように実現されているか考えてみよう。</p>
<p>4. 嘉納治五郎とオリンピック (pp.28-29)</p>	<p>〈教育者としての嘉納治五郎〉・〈アジア初のIOC委員 嘉納治五郎〉・〈日本へのオリンピック招致〉 <input type="checkbox"/>嘉納治五郎 (写真) <input type="checkbox"/>小泉八雲 (写真) <input type="checkbox"/>夏目漱石 (写真) <input type="checkbox"/>魯迅 (写真) <input type="checkbox"/>嘉納治五郎の銅像 (豆知識) <input type="checkbox"/>1912年第5回ストックホルム大会でマラソンに出場した金栗四三選手 (写真) <input type="checkbox"/>渋谷区千駄ヶ谷の明治公園にあった嘉納治五郎の記念碑 (写真) <input type="checkbox"/>1912 (明治45) 年第5回ストックホルム大会における日本代表の入場行進 (写真)</p>	<p>※オリンピック・パラリンピックの精神 ◆日本人としての自覚と誇り</p>	<p>○夏目漱石の『坊ちゃん』には、漱石が嘉納治五郎に師範学校の教師になることを勧められた時の様子をモデルにした場面がある。『坊ちゃん』を読んで、その場面を見付けてみよう。</p>
<p>5. 平和の祭典オリンピック (pp.30-31)</p>	<p>〈「平和の祭典」オリンピック〉・〈オリンピックの影〉・〈オリンピック休戦のシンボル〉 <input type="checkbox"/>長野冬季大会開会式で放たれた鳩の形をした風船 (写真) <input type="checkbox"/>オリンピック休戦のシンボルマーク (図) <input type="checkbox"/>国連本部のオリンピック休戦モニュメント (写真) <input type="checkbox"/>鳩が舞う開会式 (豆知識)</p>	<p>※オリンピック・パラリンピックの精神 ◆豊かな国際感覚</p>	<p>○国際情勢や政治の動きが、過去のオリンピックにどのような影響を及ぼしたのか、その事例を調べてみよう。</p>
<p>6. 聖火と聖火リレー (pp.32-33)</p>	<p>〈聖火とは何か〉・〈聖火リレーの始まり〉・〈1964年東京オリンピック大会の聖火リレー〉 <input type="checkbox"/>オリンピアの遺跡、ヘラ神殿前</p>	<p>※オリンピック・パラリンピックの精神 ◆豊かな国際感覚</p>	<p>○1964年東京オリンピック大会の聖火リレーのコースには、どのような意味が込められていたのか、考えてみよう。</p>

	<p>で行われる採火式 (写真)</p> <p><input type="checkbox"/>第11回ベルリン大会での聖火リレー (写真)</p> <p><input type="checkbox"/>最終聖火ランナー (豆知識)</p> <p><input type="checkbox"/>1964年第18回東京大会における国内外の聖火リレーコース (図)</p>		
7. フェアプレーとは何か (pp.34-35)	<p>〈フェアプレーとは〉・〈真の勇者〉・〈友情のオリンピック〉</p> <p><input type="checkbox"/>1998 (昭和) 10年第18回長野冬季大会のクロスカンントリー 10kmクラシカルで、ケニアからただ一人参加し最下位でゴールしたフィリップ・ボイド選手を迎える、金メダリスト ビョルン・ダーリ選手 (写真)</p> <p><input type="checkbox"/>1948 (昭和23) 年第14回ロンドン大会開会式 (写真)</p> <p><input type="checkbox"/>オリンピックは参加することに意義がある (豆知識)</p>	<p>※オリンピック・パラリンピックの精神</p> <p>◆スポーツ志向</p>	<p>○あなたが、これまでに経験したフェアプレーを思い出してみよう。そして、どんなところがすばらしかったか、友達に紹介してみよう。</p>
8. オリンピックと環境 (pp.36-37)	<p>〈IOCと環境問題〉・〈長野冬季大会の環境対策〉・〈長野冬季大会以降の環境対策〉・〈東京2020大会の環境対策〉</p> <p><input type="checkbox"/>JOCが作成した環境保全を啓発するポスター (図)</p> <p><input type="checkbox"/>人海戦術で滑降コースを整備 (写真)</p> <p><input type="checkbox"/>環境オリンピック〜生ごみリサイクル (写真)</p> <p><input type="checkbox"/>2012年第30回ロンドン大会のメインスタジアムの周りには、カリフォルニアポピー、マリーゴールドなど、色とりどりの花が植えられた (写真)</p> <p><input type="checkbox"/>2014 (平成26) 回第12回ソチ冬季大会でアイスホッケーなどが行われたアイスドームには、3万8千個のLEDが使用された (写真)</p> <p><input type="checkbox"/>東京都が都営バスへの導入を目指している燃料電池バス (写真)</p>	<p>※環境</p> <p>◆日本人としての自覚と誇り</p>	<p>○東京2020大会では、どのような環境への配慮がなされているのか、調べてみよう。また、持続可能な社会に向けて自分にできる環境に配慮した行動を考えてみよう。</p>
9. オリンピック・レガシー (pp.38-41)	<p>〈オリンピック・レガシーとは〉・〈1964 (昭和39) 年東京大会の無形のレガシー〉・〈オリンピック国民運動〉・〈1964年東京大会の有形のレガシー〉</p> <p><input type="checkbox"/>〈オリンピック国民運動〉国民一人一人に開催国の一員としての自覚や誇りをもたせ、国際理解を促すため、様々な関連行事が行われたり、標語の書かれたポスターや垂れ幕が掲げられたりした (写真)</p> <p><input type="checkbox"/>調布市の東京スタジアムの近く</p>	<p>※オリンピック・パラリンピックの精神</p> <p>◆日本人としての自覚と誇り</p>	<p>○1964年東京大会の開催によって東京の街は大きく変貌した。当時の様子を知る人に話を聞いたり、博物館や郷土資料館等で調べたりしてみよう。また、その時の遺産が、現代の生活でどのように活用されているか、考えてみよう。</p>

	<p>にあるマラソンの折り返し地点の碑 (写真)</p> <p><input type="checkbox"/>JR原宿駅前の山手線の上に架かる五輪橋。地球は一つというメッセージが込められている (写真)</p> <p><input type="checkbox"/>「美しいオリンピック」～ポリバケツの普及 (豆知識)</p> <p><input type="checkbox"/>交通インフラの整備 (写真)</p> <p><input type="checkbox"/>あの日あの時、変わりゆく東京の街並み (写真)</p>			
10. パラリンピックが目指すもの (pp.42-43)	<p>〈オリンピック・ムーブメントとは〉・〈国際オリンピック委員会の役割〉・〈パラリンピックの価値〉・〈パラリンピックの聖火リレー〉</p> <p><input type="checkbox"/>パラリンピックの究極の目標(図)</p> <p><input type="checkbox"/>パラリンピック競技の様子(写真)</p> <p><input type="checkbox"/>パラリンピックのシンボルマーク (豆知識)</p>	<p>※オリンピック・パラリンピックの精神</p> <p>◆障害者理解</p>		
11. パラリンピックの歴史 (pp.44-45)	<p>〈パラリンピックの創設者―ルードヴィヒ・グットマン〉・〈パラリンピック大会の始まり〉・〈パラリンピック大会と日本〉</p> <p><input type="checkbox"/>パラリンピックの創設者―ルードヴィヒ・グットマン (写真)</p> <p><input type="checkbox"/>国際ストック・マンデビル大会 (写真)</p> <p><input type="checkbox"/>パラリンピックのマスコット (豆知識)</p> <p><input type="checkbox"/>1960年第1回大会 (写真)</p> <p><input type="checkbox"/>日本パラリンピックの父―中村裕 (写真)</p>	<p>※オリンピック・パラリンピックの精神</p> <p>◆障害者理解</p>	<p>○東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会公式サイトにあるIPC認定教材「I'm POSSIBLE」等を活用して、パラリンピックが目指すものやパラリンピックの価値などを調べてみよう。</p>	
第Ⅲ章 オリンピック・パラリンピックと日本	1. 過去のオリンピック大会における日本人選手の活躍 (pp.48-51)	<p>〈日本人初の金メダル陸上競技 織田幹雄、日本人女性金メダル1号競泳 前畑秀子、日本馬術史上唯一のメダリスト馬術 西竹一、「泳心一路」競泳 古橋廣之進、「女姿三四郎」柔道 山口香、なでしこジャパンの快進撃 日本サッカー史上初の銀メダル〉</p> <p><input type="checkbox"/>織田幹雄 (文・写真)</p> <p><input type="checkbox"/>前畑秀子 (文・写真)</p> <p><input type="checkbox"/>西竹一 (文・写真)</p> <p><input type="checkbox"/>ウラヌス (豆知識)</p> <p><input type="checkbox"/>古橋廣之進 (文・写真)</p> <p><input type="checkbox"/>山口香 (文・写真)</p> <p><input type="checkbox"/>なでしこジャパン (文・写真)</p> <p><input type="checkbox"/>競技別・男女別メダル獲得数(表)</p> <p><input type="checkbox"/>夏季大会 日本人選手参加人数推移 (グラフ)</p>	<p>※スポーツ</p> <p>◆スポーツ志向</p> <p>◆日本人としての自覚と誇り</p>	<p>○他にも、あなたが興味をもった選手について、学校図書館やインターネット等を活用して調べ、その活躍の様子やエピソードを伝える新聞を作成して、他の人に紹介してみよう。</p>
	2. 1940年幻の東京大会 (pp.52-55)	<p>〈1940 (昭和15) 年第12回東京大会が決定〉・〈オリンピック返上〉・〈戦争が与えた影響〉・〈戦火に消えた</p>	<p>※スポーツ</p> <p>◆スポーツ志向</p>	<p>○1940年の第12回東京大会では、どこに、どのような競技会場や選手村を作る計画だったのか、</p>

	<p>オリンピック選手) <input type="checkbox"/>旧鉄道省が作成したポスター (写真) <input type="checkbox"/>開催決定を喜ぶ東京市設案内所、東京オリンピック公認ピンバッチ、記念湯飲み (写真) <input type="checkbox"/>予定されていた第12回東京大会オリンピックの開催期間、競技数 (表) <input type="checkbox"/>勝鬃橋 (写真) <input type="checkbox"/>第12回東京大会が決定したことを伝える新聞 (写真) <input type="checkbox"/>競技会場予定地 (図) <input type="checkbox"/>オリンピックの中止決定を伝える新聞 (写真) <input type="checkbox"/>オリンピック旗に包まれて運ばれる嘉納治五郎の遺体 (写真) <input type="checkbox"/>戦火に消えたオリンピック選手たち (写真) <input type="checkbox"/>友情のメダル (豆知識)</p>		<p>上の地図で確認してみよう。</p>
<p>3. 1964年東京オリンピック大会・パラリンピック大会の開催 (pp.56-61)</p>	<p>〈1964年10月10日 (土) 東京オリンピック開会式〉・〈アジアで初めてのオリンピック〉・〈オリンピック賛歌～約70年ぶりの大合唱〉・〈戦後の復興を経て、悲願の東京大会が開催〉・〈活躍した日本人選手たち〉・〈竹の棒でマラソンコースを計測〉・〈国旗掲揚に秘められた工夫〉・〈選手村の食を支えた料理人〉・〈1964 (昭和39) 年第2回東京パラリンピック大会とそのレガシー〉 <input type="checkbox"/>東京オリンピック開会式でブルーインパルスが描いた五つの輪 (写真) <input type="checkbox"/>1964年東京大会の開催時期、参加国・地域、参加選手数 (表) <input type="checkbox"/>東京大会のポスター (写真) <input type="checkbox"/>開会式の日本選手団入場 (写真) <input type="checkbox"/>オリンピック賛歌 (図) <input type="checkbox"/>東京五輪スモーク作戦 (豆知識) <input type="checkbox"/>戦後、オリンピックへの復帰を求め、署名する人々 (写真) <input type="checkbox"/>活躍した日本人選手たち (写真) <input type="checkbox"/>東洋の魔女の舞台裏 (豆知識) <input type="checkbox"/>オリンピックを支えた人々 (写真) <input type="checkbox"/>1964年東京大会マラソンコース (図) <input type="checkbox"/>1964年第2回東京パラリンピック大会の様子 (写真)</p>	<p>※スポーツ ◆ボランティアマイ ンド ◆スポーツ志向 ◆日本人としての自 覚と誇り</p>	<p>○アジアで初めてのオリンピックは、アジア圏の国々にどのような影響を与えたのか、調べてみよう。 ○東京2020大会では、どんなボランティアが必要だろうか、また、自分には何ができるか、考えてみよう。</p>

<p>4. 日本初の冬季オリンピック 1972年札幌オリンピック (pp.62-63)</p>	<p>〈開催決定までの道のり〉・〈飛んだ、決まった、「日の丸飛行機」〉・〈オリンピック史上初となった、全体会カラー放送〉・〈生まれ変わった札幌〉</p> <p><input type="checkbox"/> 笠谷幸生選手のジャンプ (写真)</p> <p><input type="checkbox"/> 1972年札幌大会の開催期間、参加国・地域、参加選手数 (表)</p> <p><input type="checkbox"/> 「さっぽろ雪まつり」 (写真)</p> <p><input type="checkbox"/> 環境との共存 自然との調和を目指すオリンピックへ (豆知識)</p>	<p>※スポーツ</p> <p>◆スポーツ志向</p> <p>◆日本人としての自覚と誇り</p>	<p>○オリンピック・パラリンピックとテレビや新聞等のマスメディアとの関係について考えてみよう。</p>
<p>5. 2度目の冬季オリンピック・日本 (アジア) 初の冬季パラリン (pp.64-65)</p>	<p>〈21世紀への架け橋〉を目指したスポーツの祭典 長野オリンピック〉・〈長野から始まった「1校1国運動」〉・〈アジアで開催された初の冬季パラリンピック大会〉</p> <p><input type="checkbox"/> 清水宏保選手 (写真)</p> <p><input type="checkbox"/> 第18回冬季オリンピック大会・第7回冬季パラリンピック大会の開催期間、参加国・地域、参加選手数 (表)</p> <p><input type="checkbox"/> 「1校1国運動」 (写真)</p> <p><input type="checkbox"/> 日本の伝統工芸とパラリンピック水引で作った月桂冠 (豆知識)</p>	<p>※スポーツ</p> <p>◆障害者理解</p> <p>◆スポーツ志向</p> <p>◆日本人としての自覚と誇り</p>	<p>○長野の「1校1国運動」を踏まえ、東京2020大会に向けて、参加国の人々とのような交流をしたいか、考えてみよう。</p>
<p>1. 世界に誇る和の心 (pp.68-71)</p>	<p>〈相撲の歴史〉・〈相撲の所作やしきたり〉・〈「道～美と礼と形の重視」〉・〈お辞儀－相手を敬う日本人の心の表れ〉・〈風呂敷～包む、結ぶ〉・〈世界で最も短い文学 Haiku〉</p> <p><input type="checkbox"/> 歌川国芳「勸進大相撲土俵入之図」 (図)</p> <p><input type="checkbox"/> 平安時代の「相撲節会」 (図)</p> <p><input type="checkbox"/> 三役そろい踏み (写真)</p> <p><input type="checkbox"/> 我が国発祥のスポーツ (豆知識)</p> <p><input type="checkbox"/> お辞儀するなでしこジャパンの選手 (写真)</p> <p><input type="checkbox"/> 真結びの結び方 (図)</p> <p><input type="checkbox"/> 和菓子・風呂敷 (写真)</p>	<p>※文化</p> <p>◆日本人としての自覚と誇り</p>	<p>○相撲に見られる所作の意味や礼法、相撲の決まり手について、調べてみよう。</p>
<p>2. 世界の発信する日本の技術 (pp.72-73)</p>	<p>〈テニス・バドミントンの選手を支えるストリングマシン〉・〈できるだけ遠くに飛ばせるように～競技用ハンマーの開発～〉・〈選手との信頼関係から生み出される競技用車いす〉・〈幻想的な映像効果を生んだ水面合成カメラ〉</p> <p><input type="checkbox"/> ストリングマシン (写真)</p> <p><input type="checkbox"/> 競技用ハンマー (写真)</p> <p><input type="checkbox"/> 競技用車いす (写真)</p> <p><input type="checkbox"/> 水面合成カメラ (写真)</p> <p><input type="checkbox"/> オリンピックに採用された当時の最先端技術 (豆知識)</p>	<p>※文化</p> <p>◆日本人としての自覚と誇り</p>	<p>○オリンピックやパラリンピックで使用されている日本の技術や製品について、他にはどんなものがあるか調べてみよう。また、日本科学未来館や科学技術館等、体験型の施設に出掛けてみよう。</p>

	<p>3. 世界が注目するクールジャパン (pp.74-75)</p> <p>〈ジャポニズムからクールジャパンへ〉・〈江戸の夏をクールに〜花火大会〉・〈東京から発信するクールジャパン〉</p> <p><input type="checkbox"/> 歌川国虎「江戸両国橋夕涼大花火之図」(図)</p> <p><input type="checkbox"/> 歌川広重「名所江戸百景大橋あたけの夕立」(図)</p> <p><input type="checkbox"/> フィンセント・ファン・ゴッホ「日本趣味 雨の大橋」(図)</p> <p><input type="checkbox"/> 花火大会 (写真)</p> <p><input type="checkbox"/> 渋谷スクランブル交差点 (写真)</p> <p><input type="checkbox"/> 和食 (写真)</p>	<p>※文化</p> <p>◆日本人としての自覚と誇り</p>	<p>○あなたが考える「クールジャパン」を外国人に英語で伝えられるように練習してみよう。</p>
<p>1. スポーツが果たす重要な役割 (pp.78-79)</p>	<p>〈スポーツは体も心も成長させる〉・〈スポーツが心身に及ぼす効果〉</p> <p><input type="checkbox"/> 東京マラソン (写真)</p>	<p>※スポーツ</p> <p>◆スポーツ志向</p>	<p>○生涯にわたって豊かなスポーツライフを実践するために、今、どのようなことをしたらよいかを考え、話し合ってみよう。</p>
<p>2. スポーツ、人権と共生社会 (pp.80-81)</p>	<p>〈オリンピックにおける根本原則〉・〈オリンピックにおける人種差別〉・〈一ジェシー・オーエンスの戦い〉・〈パラリンピックへの女性の参加〉・〈先住民族とオリンピック〉・〈共生社会を推進する東京〉・〈全ての人がスポーツを〉</p> <p><input type="checkbox"/> ジェシー・オーエンス選手(写真)</p> <p><input type="checkbox"/> 女性アスリートの目覚ましい活躍 (写真)</p> <p><input type="checkbox"/> キャシー・フリーマン (写真)</p>	<p>※オリンピック・パラリンピックの精神</p> <p>※スポーツ</p> <p>◆障害者理解</p> <p>◆豊かな国際感覚</p>	<p>○過去大会において、様々な人権問題を解消するために、どのような取組が行われてきたのか、調べてみよう。</p>
<p>3. 震災復興に向けた取組 (pp.82-83)</p>	<p>〈JOC「がんばれ！ニッポン！」プロジェクト〉・〈JOC「応援ありがとう in 東北」〉・〈1964（昭和39）年第18回東京大会の聖火を灯した聖火台が石巻へ〉</p> <p><input type="checkbox"/> 「ロンドンオリンピック・パラリンピック 応援ありがとう in 東北」(写真)</p> <p><input type="checkbox"/> 被災地で行われた聖火台への点火式 (写真)</p> <p><input type="checkbox"/> 親子2代で作った聖火台(豆知識)</p>	<p>※オリンピック・パラリンピックの精神</p> <p>◆ボランティアマインド</p>	<p>△震災復興に向けて、自分たちにできることを考えてみよう。また、どうすればそれを実現できるか、具体策を考えて、グループでアイデアを出し合ってみよう。</p>
<p>4. 参加国や地域について調べよう (pp.84-87)</p>	<p>〈オリンピック・パラリンピックに参加する国や地域〉</p> <p><input type="checkbox"/> 2012（平成24）年第30回ロンドン大会開会式 (写真)</p> <p><input type="checkbox"/> オリンピック・パラリンピックに参加する国や地域 (写真)</p> <p><input type="checkbox"/> 近代オリンピック・パラリンピックの開催地 (地図)</p>	<p>※オリンピック・パラリンピックの精神</p> <p>◆豊かな国際感覚</p>	<p>○2020（令和2）年には、世界中の人々が日本を訪問し、様々な人々と交流する機会が拡大するだろう。お互いに楽しく、有意義な交流となるよう、事前にどのようなことを学んでおくとよいか、考えてみよう。</p> <p>○近代オリンピック・パラリンピックの開催地の分布からどのようなことが読み取れるか、考えてみよう。</p> <p>○興味をもった参加国・地域の場所を確認し、色を塗ってみよう。</p>

第V章 東京オリンピック・パラリンピックが目指すもの

				また、国旗、挨拶、食文化等、調べてみよう。
5. 世界の中の日本人として国際マナーを知ろう (pp.88-89)	<input type="checkbox"/> 〈プロトコール〉・〈挨拶〉・〈国旗と国歌〉 <input type="checkbox"/> 挨拶の留意点 (文) <input type="checkbox"/> 国旗掲揚 (写真) <input type="checkbox"/> 国旗の掲揚に関わるプロトコール (図) <input type="checkbox"/> 外国の学校からお客様をお迎えするとき (豆知識)	※文化 ◆日本人としての自覚と誇り	○国際社会に生きる日本人として、外国の人々をお迎えするときに、どのようなことに気を付けて接することが大切か、話し合ってみよう。	
6. 未来へ (pp.90-91)	<input type="checkbox"/> 〈みんなが参加する、みんなでつくる東京2020東京〉 <input type="checkbox"/> 大会に関わるボランティアスタッフ (写真)	※オリンピック・パラリンピックの精神 ◆ボランティアマインド	○2020 (令和2) 年に向けて、これからどのようなことにチャレンジしていきたいか、考えてみよう。また、東京2020大会にどのような形で関わっていきたいか、自分の思いを書いてみよう。 ○東京2020年オリンピック・パラリンピックに関わる計画を立てよう。	

(東京都教育委員会 (2019b) をもとに筆者作成)

視点1に関して、第I章では「大会の基本コンセプト」、「熱戦が繰り広げられる競技会場」、「オリンピックの実施競技 (夏季大会)」、「オリンピックの実施競技 (冬季大会)」、「パラリンピックの実施競技 (夏季大会)」、「パラリンピックの実施競技 (冬季大会)」について学習する構成となっている。本章では、具体的に東京2020大会の基本コンセプト (「すべての人が自己ベストを目指し (全員が自己ベスト)」、「一人ひとりが互いを認め合い (多様性と調和)」、「そして、未来につなげよう (未来への継承)」) を踏まえ、予定の競技会場及びオリンピック・パラリンピックの実施競技について、写真 (絵) の読み取りを通して理解させる構成となっている。第II章では「オリンピックが目指すもの」、「古代オリンピック」、「近代オリンピックとクーベルタン」、「嘉納治五郎とオリンピック」、「平和の祭典オリンピック」、「聖火と聖火リレー」、「フェアプレーとは何か」、「オリンピックと環境」、「オリンピック・レガシー」、「パラリンピックが目指すもの」、「パラリンピックの歴史」について学習する構成となっている。本章では、具体的にオリンピズムの根本原則やオリンピックの三つの価値、オリンピック・パラリンピックの歴史 (重要人物を含む)、オリンピックが与える影響、環境保全に向けた取り組みについて、写真 (絵) や文章の読み取りや調べ学習を通して理解させる構成となっている。第III章では「過去のオリンピック大会における日本人選手の活躍」、「1940年幻の東京大会」、「1964年東京オリンピック大会・パラリンピック大会の開催」、「日本初の冬季オリンピック1972年札幌大会」、「2度目の冬季オリンピック・日本 (アジア) 初の冬季パラリンピック1998年長野大会」について、学習する構成となっている。本章では、具体的に過去のオリンピック大会における日本人選手の活躍やこれまで日本で開催された (される予定だった) オリンピック・パラリンピック大会の歴史やエピソードについて、写真 (絵) や文章の読み取りや調べ学習を通して理解させる構成となっている。第IV章では「世界に誇る和の心」、「世界に発信する日本の技術」、「世界が注目するクールジャパン」について学習する構成となっている。本章では、具体的に日本の国技である相撲の歴史や所作、オリンピック・パラリンピック大会の成功を陰で支える日本の技術や製品、海外から注目されている日本の格好よさ (クールジャパン) 等について、写真 (絵) や文章の読み取りや調べ学習を通して理解させる構成となっている。第V章では「スポーツが果たす重要役割」、「スポーツ、人権と共生社会」、「震災復興に向けた取組」、「参加国や地域について調べよう」、「世界の中の日本人として国際マナーを知ろう」、「未来へ」について学習する構成となっている。本章では、具体

的に東京2020大会を迎えるにあたり、改めて開催国として理解しておくべき理念やオリンピック・パラリンピックが取り組んできた歴史について、写真（絵）や文章を通して理解させたり、東京2020大会の成功に向けて学習者自身にできることを考えさせたりする構成となっている。以上のような学習内容を踏まえ、改めて『中学校編』に掲載されている資料数を整理すると次のようになる。1テーマ（内容項目）あたり最小で1、最大で12であり、1テーマ（内容項目）ごとに掲載されている資料数にばらつきがある（1テーマ（内容項目）あたり平均は4.3）。全体を通して、写真資料が豊富に掲載されており各内容項目について学習者に理解させるために、充実した構成となっている。

視点2に関して、第I章では、オリパラ教育が掲げる「4つのテーマ」のうち、「スポーツ」について学習することを通して、「スポーツ志向」の資質育成が企図されている。具体的には、オリンピックやパラリンピックの実施競技の競技内容や種目、そのルール等について調べる活動を通して、スポーツへの興味・関心を高めることがめざされている。第II章では、「4つのテーマ」のうち、「オリンピック・パラリンピックの精神」・「環境」について学習することを通して、「障害者理解」・「スポーツ志向」・「日本人としての自覚と誇り」・「豊かな国際感覚」の資質育成が企図されている。具体的に、「オリンピック・パラリンピックの精神」に関しては、パラリンピックがめざす究極の目標やその価値、及びパラリンピック競技の歴史などを調べる活動を通して、障害者に対する理解を深めること（「障害者理解」）や、フェアプレーについて資料や文章を読んで理解したり、これまでに学習者自身が経験したフェアプレーについて記憶を振り返ったりする等の活動を通して、フェアプレーの精神の重要性に気付かせること（「スポーツ志向」）、また日本へのオリンピック招致に尽力した嘉納治五郎の業績や1964（昭和39）年東京大会における無形・有形レガシー等について調べる活動を通して、日本人としての自覚と誇りを持たせること（「日本人としての自覚と誇り」）や、過去に国際情勢や政治がオリンピックに与えた影響や聖火リレーの歴史等について調べる活動を通して、世界の多様な国々の歴史や文化、オリンピック・パラリンピック大会に向けた様々な取り組みについて理解を深めること（「豊かな国際感覚」）等がめざされている。一方、「環境」に関しては、「8. オリンピックと環境」という内容項目において、JOCが作成した環境保全を啓発するポスターや長野冬季大会以降の環境対策、及び東京2020大会における日本の最新技術を活用した取組み等について調べる活動を通して、持続可能な社会の実現に向けたオリンピック・パラリンピック大会の取組や、それを踏まえて学習者自身ができる環境に配慮した行動のあり方について考えさせること（「日本人としての自覚と誇り」）がめざされている。第III章では、「4つのテーマ」のうち、「スポーツ」について学習することを通して、「ボランティアマインド」・「障害者理解」・「スポーツ志向」・「日本人としての自覚と誇り」の資質育成が企図されている。具体的に、1964（昭和39）年東京大会における選手以外の存在（通訳・翻訳、来場案内者、自衛隊、ボーイスカウト等）の活躍について調べる活動を通して、東京2020大会に必要なボランティアや、自分にできることを考えさせること（「ボランティアマインド」）や、長野冬季パラリンピック以降の新聞紙面（スポーツ面）においてパラリンピックの内容が急増した事実、パラリンピック競技を観戦した生徒の作文等の資料を通して、障害者に対する理解を深めること（「障害者理解」）、さらに過去のオリンピック・パラリンピックにおける日本人選手の活躍、日本で開催されたオリンピック・パラリンピックの歴史及び関連するエピソード等について調べる活動を通して、スポーツへの興味・関心を高めたり、日本人としての自覚と誇りを持たせたりすること（「スポーツ志向」・「日本人としての自覚と誇り」）がめざされている。第IV章では「4つのテーマ」のうち、「文化」について学習することを通して、「日本人としての自覚と誇り」の育成が企図されている。具体的には、相撲に見られる所作の意味や礼法、その他日本の伝統・文化の特質やその良さ、オリンピック・パラリンピックの成功を陰で支える日本の技術や製品等について調べる活動を通して、日本人としての自覚と誇りを持たせることがめざされている。第V章では「4つのテーマ」のうち、「環境」以外の3つのテーマ（「オリンピック・パラリンピックの精神」・「スポーツ」・「文化」）について学習することを通して、「ボランティアマインド」・「障害者理解」・「スポーツ志向」・「日本人としての自覚と誇り」・「豊かな国際感覚」の育成が企図され

ている。具体的に、「オリンピック・パラリンピックの精神」に関しては、オリンピズムにおける根本原則、オリンピック憲章の条文や過去のオリンピックが取り組んできた人種差別などの人権問題への取り組みについて学習することを通して「共生社会」の重要性を理解すること（「障害者理解」）、世界には多くの国や地域があり、それぞれの伝統や文化を守り、大切にしているという考え方のもと、興味をもったオリンピック・パラリンピックの参加国や地域の場所・国旗・挨拶・食文化等について調べて理解すること（「豊かな国際感覚」）、東日本大震災からの復興に向けたスポーツイベント（JOC「がんばれ！ニッポン！」プロジェクト・「応援ありがとう in 東北」等）におけるオリンピック・アスリートによる社会貢献活動について理解することを通して、震災復興に向けて学習者自身ができることや東京2020大会の成功に向けてチャレンジしたいことなどを考えさせたりする学習がめざされている（「ボランティアマインド」）。「スポーツ」に関しては、スポーツが果たす重要な役割や心身に及ぼす効果の資料をもとにスポーツへの興味・関心を高めることがめざされている（「スポーツ志向」）。一方、「文化」に関しては、「5. 世界の中の日本人として国際マナーを知ろう」という内容項目において、オリンピック・パラリンピックに参加する国や地域について、互いの伝統や文化を理解し、尊重することの重要性を踏まえ、上記に関わり国や地域を調べる学習が設定されている（「豊かな国際感覚」）。以上この視点2に関して、「4つのテーマ」及び育成したい5つの資質を数値で整理すると次のようになる。まず「4つのテーマ」に関して、「オリンピック・パラリンピックの精神」が14、「スポーツ」が11、「文化」が4、「環境」が1となる。一方、育成したい5つの資質に関しては、「ボランティアマインド」が3、「障害者理解」が4、「スポーツ志向」が11、「日本人としての自覚と誇り」が11、「豊かな国際感覚」が7となる。以上のように、テーマ及び育成したい資質ともに都教委（2016）が掲げるオリパラ教育の理念や方針を踏まえた作成されたものであり、その目的を達成しうる内容構成になっている。しかし、「4つのテーマ」及び育成したい5つの資質のいずれに関してもばらつきがあり、極端に扱いが少ないテーマやその結果として育成される資質に関しては、全体のバランス調整や内容の充実も含めて検討の余地がある。

視点3に関して、第I章では5、第II章では11、第III章では6、第IV章では3、第V章では9、合計32の問い・課題が設定されている。これらの問い・課題を岩田（2001）の知識論（第2表）を参考に、分類すると、事実判断を通じた「記述・分析的知識」の獲得が31、推理を通じた「説明・概念的知識」の獲得が0、価値判断を通じた「規範的知識」の獲得が1という結果であった。事実判断を通じた「記述・分析的知識」の獲得に関しては、例えば「パラスポーツには、どのような種目があるのか調べてみよう」や「東京2020大会では、どのような環境への配慮がなされているのか、調べてみよう」等の問い・課題が設定されており、これらを通して事実を理解させることが企図されている。一方、価値判断を通じた「規範的知識」の獲得に関しては、唯一「震災復興に向けて、自分たちにできることを考えてみよう。また、どうすればそれを実現できるか、具体策を考えて、グループでアイデアを出し合ってみよう」という問い・課題が設定されており、東日本大震災からの復興に向けてオリンピックやアスリートらが行ってきた社会貢献活動を参考に、震災復興に向けて学習者自身ができることを考えさせる学習が企図されている。この視点に関して、全体を通して事実判断を通して「社会を知る」という認識形成に重点が置かれており、推理を促す問い・課題が設定されていないことから「社会がわかる」という認識形成に関しては保証しえない構成であると判断できる。また、価値判断を促す問い・課題は設定されているが、単元全体を通して獲得した知識を総動員して、判断させるという文脈で位置づいていない。したがって、「社会を考える」という資質育成にも対応した構成ではない点も課題として指摘できる。

総じて、『中学校編』は、テーマ及び育成したい資質ともに都教委（2016）が掲げるオリパラ教育の理念や方針を踏まえて作成された充実した教材であり、オリパラ教育を通して達成したい目標（目的）を達成しうる内容構成である。しかし、「4つのテーマ」及び育成したい5つの資質のいずれに関してもばらつきがあること、また設定されている問い・課題に関しては、事実判断を通じた「記述・分析的知識」の獲得に焦点化されており、「社会を知る」という認識に留めてしまう危険性があることが確認された。

IV. 比較対象事例としてのイングランド地理教育 (KS3) におけるオリンピックに関する学習内容

筆者は、かつて他国ではオリンピックに関する学習がどのように行われているのだろうか、という問題意識のもと、イングランド中等地理教育の中でも最も広く使用されている『Key Geography』シリーズ (KS3) のNEW KEY GEOGRAPHY *Interactions* (以下、*Interactions*) に収録されている単元「ファッション&スポーツ (Fashion and Sport)」を分析したことがある (佐藤、2017a; 佐藤、2017b)。本単元は、全9小単元 (全18頁) で構成されており、オリンピックに関する学習内容は4小単元 (8頁) が該当している (第4表)。また、第4表で示した小単元のうち、オリンピックに関する小単元を上述した分析視点で整理すると第5表のように整理される。

第4表 単元「ファッション&スポーツ (Fashion and Sport)」の全体構成

※着色部がオリンピックに関する学習内容の該当箇所

小単元名 (頁)	全体構成		
1. ファッションとスポーツは私たちの生活にどのような影響を与えているのか? (pp. 68-69)	単元の主な学習内容及び意義の把握		ファッションやスポーツを視点とした 世界地誌学習 文化の理解と多様性を中核とした地理的 見方・考え方の育成をめざす地理学習
2. グローバリゼーションとは何か? (pp. 70-71)	ファッション産業 がもたらす影響	グローバル産業がもたらす影響と 持続可能な社会の実現	
3. ファッション産業はどのように変化してきているのか? (pp. 72-73)			
4. 多国籍企業は貧しい国にどのような影響を与えているのか? (pp. 74-75)			
5. 服飾産業に何が起こったのか? (pp. 76-77)			
6. スポーツとはいかに世界的なものであるか? (pp. 78-79)	スポーツ がもたらす影響	獲得した知識 (概念) の活用	
7. スタジアムの立地に最適な場所はどこか? (pp. 80-81)			
8. スタジアム - 良いニュースと悪いニュース (pp. 82-83)			
9. オリンピックに関する調査 (pp. 84-85)			

(佐藤 (2017b) をもとに筆者一部修正)

第5表 イングランド地理教育 (KS3) におけるオリンピックに関する学習内容の構成と分析

小単元名	【視点1】 〈 〉 主な学習内容 □ 主な資料	【視点2】 ※ 該当するテーマ ◆ 育成したい資質	【視点3】 設定されている問い・課題と 期待される知識・思考
6. スポーツとはいかに世界的なものであるか?	〈スポーツが世界的なものになった理由〉・〈オリンピックが国際行事と呼ばれる理由〉・〈所属クラブに外国人選手がいることのメリット・デメリット〉 □ オリンピックの開催地 (地図) □ サッカープレミアムシップにおける外国人選手の数 (地図)	※ スポーツ ◆ スポーツ志向	○ 1948年から2012年までのオリンピック開催地を並べ、それぞれに国名と大陸名を加えなさい。裏表紙の世界地図を参照しなさい。 ● オリンピックはしばしば世界最大の国際行事と呼ばれている。その理由を図Dに空欄に書き入れなさい。 ○ ヨーロッパ以外でそれぞれの大から2つの国を選び、表を完成させなさい。 ● シーズン前の遠征で代表選手団は、

			<p>米国や極東に行くことが多い。その理由を3つ以上挙げなさい。</p> <p>○もし、あなたが選手になったばかりの若いサッカー選手であったなら、自分の所属クラブに外国人選手がいることでどのようなメリット・デメリットがあるだろうか。</p>
7. スタジアムの立地に最適な場所はどこか？	<p>〈スタジアムの立地要因〉・〈スタジアムの用地と影響〉・〈都市郊外にスタジアムを置いた場合の長所と短所〉</p> <p><input type="checkbox"/> ウェンブリー・スタジアム (写真)</p> <p><input type="checkbox"/> 新ウェンブリー・スタジアムの立地 (写真)</p> <p><input type="checkbox"/> バーミンガム (地図)</p> <p><input type="checkbox"/> ウェンブリー (地図)</p>	※環境	<p>○図Eの各立地要因 (高速道路のアクセス、旧ウェンブリー・スタジアムの用地、近隣に多数の人口、近隣にバーミンガム、道路と鉄道が国内の他の場所に接続、地下鉄によるアクセス、快適な環境、道路の接続は改善済み、鉄道によるアクセス、土地が利用できる) を地図CとDの数字に当てはめなさい。</p> <p>○図Fを大きく写して、新ウェンブリー・スタジアムの用地の長所と短所がわかるように書きなさい。</p> <p>○バーミンガムのような都市の郊外にスタジアムを置いた場合の長所と短所は何か。</p>
8. スタジアム—良いニュースと悪いニュース	<p>〈スポーツがもたらす雇用〉・〈オリンピックがもたらす利益・問題〉・〈スポーツスタジアム建設に関わる是非〉</p> <p><input type="checkbox"/> オリンピックがもたらす利益・問題 (写真・文)</p> <p><input type="checkbox"/> 2012年のロンドンオリンピック招致成功を祝う群衆 (写真)</p>	※環境	<p>○図Dは、サッカーによって創り出される仕事のいくつかを示している。表Eを書き写し、それぞれの仕事を正しい列に分類しなさい (クラブチームに関わる仕事、クラブチームに関わらない仕事)。</p> <p>●選手になる以外に、あなたはどの仕事をやってみたいか。その理由も挙げなさい。</p> <p>●図Fに示されている人々は、近所に大きなスポーツスタジアムが建つことに、誰が賛成し、誰が反対していると思うか。その理由も挙げなさい。</p> <p>●なぜ、写真Bに移っている人々はこんなに喜んでいるのかを考えなさい。</p>
9. オリンピックに関する調査	<p>〈オリンピックがロンドンにもたらす影響〉・〈オリンピック競技会場の地域的特徴〉・〈オリンピック競技会場の地域の問題点〉</p> <p><input type="checkbox"/> ダイヤモンドパターン (図)</p> <p><input type="checkbox"/> ロンドンオリンピック：いくつかの利益と問題 (写真)</p> <p><input type="checkbox"/> 2012年ロンドンオリンピック (図)</p>	※文化 ※環境	<p>○裏表紙の情報を見て、オリンピック会場の簡単な地図を書きなさい。そして、2006年時点での特色的な場所と、2012年に向けて開発が予定されている場所に印を付け、名前を書きなさい。</p> <p>●2006年時点のこの地域の問題を説明しなさい。</p> <p>△図Cを見て、オリンピックがこの地域の再生にどのような手助けができるかを示す星形の図表を書きなさい。</p>

		<p>○図Bを見て、図Aで示されているコメントをダイヤモンドパターンの中に並べなさい。</p> <p>●それでは、自分の作業結果をよく見て、調査のための問い（再生を行う理由、オリンピックの利益、主な課題、予想される結果）について答えなさい。解答にはこれらのタイトルを付けなさい。この問いには、82頁と83頁が参考になるだろう。</p>
--	--	---

(David Waugh, Tony Bushell (2006) をもとに筆者作成)

視点1に関して、小单元6では、①グローバリゼーションを背景とするオリンピックのグローバル化、②グローバリゼーションを背景とするサッカーのグローバル化について学習する構成となっている。①に関しては、地図「オリンピック」をもとに、オリンピックが1898年にアテネで開催されて以降、世界規模で開催されるようになった過程が図で示され、これら規模拡大の背景には移動の利便性が改善され、大会への参加がより簡単になったこと、また同時に世界中の視聴者がテレビで試合を観戦できるほど通信が改善されたこと等、グローバリゼーションが起因していることを理解させる構成となっている。一方②に関しては、地図「プレミアムシップ」をもとに、どの大陸からどれぐらいの数の外国人サッカー選手が英国に来ているのかが図で示され、現在のサッカー競技がオリンピック同様、グローバリゼーションの影響を受けて成立していることを理解させる構成となっている。小单元7では、2012年のロンドンオリンピックの開催地の1つになる見込みであるウェンブリー・スタジアムの最適地について立地に関わる長所と短所、代替地として提案されているバーミンガム郊外の用地の長所と短所をアクセス、広さ、環境、交通、用地等、多面的・多角的に検討することを通して、スタジアムの立地は安価で平坦な土地があり、交通の便が良く、大きな町の近隣に置くことが最適地であることを図や写真及び文章をもとに理解させる構成となっている。小单元8では、現在、スポーツが大きなビジネスとして、世界規模で展開していることや、NIKEやコカ・コーラ、スカイ・テレビジョン等の巨大な多国籍企業が毎年、スポーツに数億ポンドのお金を投資している現実を踏まえ、2012年にロンドンオリンピックが開催されることに伴い、地元にもたらされる正負の影響について学習する展開となっている。具体的に、オリンピックが開催されることで「新しいスタジアムと優秀なクラブチームが町に名声を与えること」や「スタジアム内外に新たな雇用が生み出されること」、さらに「酒場、カフェ、レストラン等の地場産業への振興に貢献すること」等の正の影響をもたらすことが予測される一方、「大きなスタジアムは目障りとなり、周辺の景観を損なう可能性があること」や「一部の観客は酒を飲み過ぎ、悪くすると野蛮行為を引き起こすかもしれないこと」、さらに「試合開催日に、近隣の道路に深刻な交通渋滞が予想されること」や「地元住民の家の前に自動車が駐車され、通行を妨げるかもしれないこと」等の負の影響をもたらす危険性があることを図や写真及び文章をもとに理解させる構成となっている。小单元9では、これまでの学習内容を踏まえ、「オリンピックがロンドンにもたらす利益とは何か？」というテーマについて、各自で調査し、報告することが課題として示されている。具体的には、ロンドンオリンピックのほとんどの競技施設がストラットフォードに近いイーストエンドに建設されること、またこの地域は、ロンドンの中でも最も貧しい地域であり、再生が真に求められている地域であること等の状況を把握した後、ロンドンオリンピックの主な目的の1つは、この地域の再生の支援と、地元で暮らす人々の生活の質を向上させることであり、そのためにどのようなことができるかを調査・検討し、報告することが課題として示されている。このような課題を解決するために、子供は開発予定地の2006年時点での問題点について地図をもとに検討したり、オリンピック開催によってこの地域にもたらされる正負の影響や予想される結果について資料をもと

に分析したりする等、問題解決的に課題を探究する展開となっている。本小単元は、単元のまとめとして位置づけられており、これまで獲得してきた知識を活用して課題解決することが企図されている。その際、グローバルに展開する産業がもたらされる負の影響を最小化し、正の影響を最大化する（持続可能な社会を実現する）ための方策について思考を促す問い・課題が設定されており、これらの課題を通じて、持続可能な（地域）社会の形成者としての資質能力の育成にも寄与する構成となっている。また、*Interactions*に掲載されている資料数を小単元ごとに整理すると次のようになる。最小で2、最大で4、小単元ごとに掲載されている資料数にばらつきがある（1小単元あたり平均は2.8）。わが国のそれと比較した場合、1小単元あたりの資料数は少なく、逆に本文の内容（分量）が充実した構成となっている。

視点2に関して、*Interactions*では、わが国のそれとは異なり、都教委（2016）が企図している4つのテーマや育成したい5つの資質を網羅するような構成にはなっていない。特質すべき点としては、『中学校編』では、取り上げられているテーマに関して、他のテーマに比べて「文化」や「環境」に関するテーマが少なかったが、*Interactions*では、全4小単元中3小単元で「文化」や「環境」というテーマで内容が構成されており、大変興味深い。一方、育成したい資質能力に関しては、都教委（2016）が掲げている目標には対応していない。わが国のそれと比較した場合、「日本人としての自覚と誇り」・「豊かな国際感覚」等のような資質育成には寄与していないが、既に佐藤（2017b）が報告しているように、本単元では、オリンピックを事例に学習することを通して、「場所」、「空間」、「スケール」、「相互関係」、「自然的プロセスと人文的プロセス」、「環境の相互作用と持続可能な開発」、「文化の理解と多様性」等、『ナショナル・カリキュラム地理（KS3）』に示された鍵概念を獲得したり、活用したりすることを目的とした構成となっている点に違いが見いだされる。

視点3に関して、小単元6では5、小単元7では3、小単元8では4、小単元9では5、合計17の問い・課題が設定されている。これらの問い・課題を岩田（2001）の知識論を参考に分類すると、事実判断を通した「記述・分析的知識」の獲得が9、推理を通した「説明・概念的知識」の獲得が7、価値判断を通した「規範的知識」の獲得が1という結果であった。事実判断を通した「記述・分析的知識」の獲得に関しては、例えば「1948年から2012年までのオリンピック開催地を並べ、それぞれに国名と大陸名を加えなさい」や「図Dは、サッカーによって創り出される仕事のいくつかを示している。表Eを書き写し、それぞれの仕事を正しい列に分類しなさい」等の問い・課題が設定されており、これらを通して事実を理解させることが企図されている。また、推理を通した「説明・概念的知識」の獲得に関しては、「図Fに示されている人々は、近所に大きなスポーツスタジアムが建つことに、誰が賛成し、誰が反対していると思うか。その理由も挙げなさい」や「なぜ、写真Bに移っている人々はこんなに喜んでいいのかを考えなさい」等の問い・課題が設定されており、社会的事象の背後にある理由や要因について因果関係的に理解させることが企図されている。さらに、価値判断を通した「規範的知識」の獲得に関しては、唯一「図Cを見て、オリンピックがこの地域の再生にどのような手助けができるかを示す星形の図表を書きなさい」という問い・課題が設定されており、オリンピック競技会場の地域の特徴（問題点を含む）やオリンピックが開催地域にもたらす影響を踏まえ、持続可能な社会の実現という視点で、考察させる学習が企図されている。わが国のそれと比較した場合、まず見開き2頁に設定されている問い・課題の数に関して、わが国のそれは、平均1～2程度であるのに対して、イングランドのそれは、4～5程度と違いが見られる。また、問い・課題の質に関しては、わが国のそれが、ほとんど事実判断を通した「記述・分析的知識」の獲得をめざす構成であるのに対して、イングランドのそれは、記述・分析的知識の獲得のみならず推理を通した「説明・概念的知識」や価値判断を通した「規範的知識」の獲得をめざすバランスのよい構成となっている点に特質を見出すことができる。

V. 結 論

本研究の目的は、都教委が作成・監修している「オリパラ学習読本」、その中でも『中学校編』を事例として取り上げ、その特質を明らかにするとともに、イングランド地理教育（KS3）におけるオリンピックに関する学習と比較・検討することを通して、学習内容の異同や中学校社会科地理授業における教材としての活用可能性について検討することであった。検討の結果、『中学校編』は、テーマ及び育成したい資質ともに都教委（2016）が掲げるオリパラ教育の理念や方針を踏まえた作成された教材であり、オリパラ教育を通して達成したい目標（目的）を達成しうる内容構成であった。しかし、「4つのテーマ」及び育成したい5つの資質のいずれに関してもばらつきがあり、極端に扱いが少ないテーマやその結果として育成したい資質に関しては、検討の余地があること、また中学校社会科地理的分野での活用を指定した場合、教材に設定されている問い・課題が事実判断を通した「記述・分析的知識」の獲得に焦点化されており、結果として「社会を知る」という認識に留めてしまう危険性があること等を課題として指摘した。一方、比較対象として取り上げたイングランド中等地理テキストブック *Interactions* 収録されている単元「ファッション&スポーツ（Fashion and Sport）」では、わが国のオリパラ教育がめざしている資質育成には対応していないが、『中学校編』で十分に扱われていなかった「文化」・「環境」に関わる学習内容が充実しているとともに、「記述・分析的知識」の獲得に重点が置かれた内容構成の課題を克服し、推理を通した「説明・概念的知識」や価値判断を通した「規範的知識」の獲得をめざす構成であることが確認された。以上の分析結果を踏まえるならば、『中学校編』は、全編を通じて、写真資料が豊富に掲載されており、「オリンピック・パラリンピックの精神」・「スポーツ」・「文化」・「環境」等、オリンピックに関わる重要なテーマについての事実を広く視覚的に理解する上では、非常に効果的な教材であると判断できる。しかし、本教材の内容を理解させるために設定されている問い・課題をそのまま用いて社会科授業を実践すると、子供の認識を「社会を知る」という認識に留めてしまい、社会科教育の目標である「社会がわかる」や「社会を考える」という認識形成や資質育成からは1歩も2歩も退いてしまうことになりかねない。普段の教科指導においては、このような教材の特質と課題を踏まえ、教科の目標に照らし合わせて必要に応じて限定的に活用していくことが現実的であろう。例えば、「日本の諸地域」単元「関東地方」において、教科書に記載されている問い（「1964年のオリンピック・パラリンピックを機にできた、他の交通網や施設をしらべましょう」や「オリンピックの開催地として東京が選ばれた理由を、地域的な特色から予想しましょう」）を考察するための手段として活用したり、イングランド地理テキストの学習内容を参考にすれば、単元「地域の在り方」において「東京オリンピック・パラリンピック大会で使用された競技会場の今後のあり方について、持続可能な社会の実現という視点で効果的な活用方法を考え、都知事に提案しよう」という学習課題を設定し、それを解決するための主教材として位置づけ、授業を展開したりすれば、社会科教育の目標である「社会を考える」という資質育成に寄与する活用方法となる。

今後は、本研究で明らかにした『中学校編』の特質と課題を踏まえ、レガシーとして残る本教材の効果的な活用方法について、具体的な単元プランの開発を通して提案していくことが課題である。また、（本研究も含め）先行する『小学校編』・『中学校編』に続き、『高等学校編』の内容的妥当性についても明らかにするとともに、それらを比較することを通して、校種間における内容の異同や系統性についても検討していきたい。

【引用・参考文献】

- 岩田一彦（2001）：『社会科固有の授業理論・30の提言—総合的学習との関連を明確にするための視点—』明治図書、pp. 40-51.
- 佐々木浩（2018）：オリンピック・パラリンピック教育実践に関しての一考察—中学校における取組を通して

-
- て一、『初等教育論集』、第19号、pp. 42-58.
- 佐々木浩 (2020)：小学校におけるオリンピック・パラリンピック教育に関する実践的研究—2年生のI'mPOSSIBLEを活用した授業を通して—、『初等教育論集』、第21号、pp. 34-48.
- 佐藤克士 (2017a)：「グローバル化した社会」の理解をめざす地理学習の内容構成—英国地理教育における単元「グローバルファッション産業」を事例として—、『教育実践学論集』 創立20周年記念特別号、pp. 63-72.
- 佐藤克士 (2017b)：社会認識形成と世界像形成の統合による「産業学習」の内容構成—英国中等地理テキストブック“NEW KEY GEOGRAPHY”を事例として—、『教育実践学論集』、第18号、pp. 49-61.
- 佐藤克士・大矢幸久 (2021)：わが国の初等段階におけるオリンピック・パラリンピック教育の分析—「オリンピック・パラリンピック学習読本」を事例にして—、『武蔵野教育学論集』、第11号、pp. 1-12.
- 東京都教育委員会 (2016)：『オリンピック・パラリンピック教育実践事例集』 107p.
- 東京都教育委員会 (2019a)：『オリンピック・パラリンピック学習読本 小学校編』 66p.
- 東京都教育委員会 (2019b)：『オリンピック・パラリンピック学習読本 中学校編』 98p.
- 東京都教育委員会 (2019c)：『オリンピック・パラリンピック学習読本 高等学校編』 121p.
- 東京都教育委員会：東京都オリンピック・パラリンピック教育プロモーションムービー
URL：<https://www.o.p.edu.metro.tokyo.jp/> (閲覧日2021年5月10日)
- 原祐一 (2020)：学校体育のこれからと地域、日本スポーツ社会学会編集企画委員会編『2020東京オリンピック・パラリンピックを社会学する』 創文企画、pp. 220-240.
- 藤原和博 (2013)：『負ける力』 ポプラ社、p. 211.
- 吉永武史 (2020)：オリンピック・パラリンピック教育のこれまでとこれから、『体育・保健体育ジャーナル』 第7号、pp. 1-4.
- David Waugh, Tony Bushell (2006)：NEW KEY GEOGRAPHY *Interactions*. Nelson Thornes, pp. 68-85.